

市長提案説明要旨

令和4年5月31日

先月24日に市長に就任した田口伸一でございます。本日開会の令和4年第2回鹿嶋市議会定例会は、私にとりまして、市長就任後、初めての定例会であります。ここに、今後の市政運営に関する所信の一端と、提出いたしました議案などを説明させていただきます。

《はじめに》

私は、この鹿嶋市に生まれ育ち、大学・会社員時代の7年間、一度本市を離れましたが、27年前に戻り、家業を継ぎ、また新たな事業を立ち上げる傍ら、各種団体活動を通じ、本市のまちづくりに係わってまいりました。その後、この地域をより良くしたいとの強い思いから政治家になることを志し、8年前に茨城県議会議員となり、この度、錦織前市長の後を受け、市政の舵取りを担当させていただくことになりました。今は、身の引き締まる思いとその重責を感じているところでございます。

これまで、市民・事業者として、あるいは団体活動者、そして県議会議員として、各々の立場から本市まちづくりに触れ、本市の魅力・強みと解決すべき課題、そして、まちづくりの方向性について常々考えてまいりました。

市長就任にあたりましては、改めて公約にも掲げました「明るく、心豊かに暮らせるまち鹿嶋」の実現を目指して市政を運営してまいります。私は、この実現に向け、「雇用と産業の創出」、「市民目線と民間発想」、「政策整理と再構築」の3点を強く意識しながら「次世代も輝く雇用のある鹿嶋」、「行ってみたい、暮らしてみたい鹿嶋」、「元気で賢い鹿嶋っ子育成」、「暮らしやすく、生きがいのある鹿嶋」、「行財政改革」をNext鹿嶋「5本の柱」と称し、主要目標として設定いたしました。市の現状や市民の皆様の生活、各地域の状況をしっかりと見定めながら、私の政治信条である「一つひとつ、コツコツと誠実に」を心がけ、持てる力を余すことなく各種施策に取り組んでまいります。

(現況と将来展望)

人口減少・少子高齢化の進行が言われて久しい中、本市の人口につきましては、現在、約6万6千人であります。基幹産業の構造改革の影響を除いても2050年には約5万4千人に、また、それに占める15歳から64歳までの生産年齢人口比率は、56%から51%に下落し、一方で後期高齢者人口比率は、15%から23%に上昇するものと想定しています。加えて、基幹産業の再構築による法人税・

固定資産税への影響などにより、税収額が減少する反面、社会保障費の増大により経常収支比率の上昇が見込まれ、更に老朽化した各種公共施設の維持・改修に多額の費用が必要となるなど、財政が年々厳しくなることが予想されます。私は、今後の市政運営に非常に強い危機感を抱き、「雇用と産業の創出」、「市民目線と民間発想」、「政策整理と再構築」を根底にスピード感を持ちながら、次の目標に取り組んでまいります。

(Next鹿嶋「5本の柱」)

1 次世代も輝く雇用のある鹿嶋

まず、「次世代も輝く雇用のある鹿嶋」づくりへの挑戦です。私は、雇用の場を確保し市民の皆様が安定した収入を得ることこそが、個人所得及び生産年齢人口、更には出生率などにも波及し、まちの活力の源泉になるものと考えております。

基幹産業である鉄鋼を中心とした製造業が市内総生産額の45%余りを占め、ここで得られた所得が、さらに市内の衣食住に消費され、生活関連産業へも拡大させている本市産業構造にあって、基幹産業の再構築は鹿嶋市政にも大きな影響を与えます。

一方、地球温暖化に端を発する「2050年カーボンニュートラル宣言」は、産業界における新たな成長機会とも捉えられており、その展開如何によりましては、本市の今後を左右するものになると考えております。

国においては、「グリーン成長戦略」を策定し、「水素産業」、「洋上風力産業」を含む14の重要分野において、予算、税制、金融、規制改革・標準化、国際連携などの主要政策ツールを打ち出し、支援するものとしています。茨城県におきましても、「いばらきカーボンニュートラル産業拠点プロジェクト」を始動させ、新エネルギー需要の開拓、新エネルギーの供給体制の整備、カーボンリサイクルの実現に向け、各種取組みを進めるものとし、先般、臨海部工業地帯での脱炭素化を進める企業の設備投資を支援するために200億円の基金を創設するなど、臨海部が新エネルギーの拠点となることを目指しています。

そのような中、日本製鉄株式会社におきましては、大型電炉での高級鋼製造、高炉における水素還元製鉄、100%水素直接還元プロセスという3つの超革新技術開発を進めるとともに、排出されるCO2については、カーボンリサイクルを図ることで、カーボンニュートラルに対応する方針が示される一方で、5,000億円規模の研究開発費と、4兆円から5兆円に上る巨額な設備投資を要することが課題とされています。

私は、鹿島港を有し、鹿島臨海工業地帯の一角を占める本市にとって、日本製鉄をはじめとした製造業が、今後もこの地域の基幹産業でありつづけてほしいと願っていますし、そうならなくてはならないと考えております。

日本製鉄の構想が本市で実現されるよう、市の支援はもとより、次世代製鉄の環

境整備となり、また新たな企業進出の可能性をも秘める「いばらきカーボンニュー
トラル産業拠点プロジェクト」の着実な推進に向け、茨城県をはじめとした関係者
と連携・協力するとともに、「グリーンイノベーション基金」等の活用など、企業へ
の更なる支援について、強力に国・関係者等へ働きかけ、企業の事業展開を後押し
してまいります。

洋上風力発電の基地港湾に指定された鹿島港・外港地区では、令和6年度の供用
を目指し、岸壁の地耐力強化や航路・泊地等の整備が国による直轄事業で進められ
ております。洋上風力発電については、再生可能エネルギーの主力電源化に向けた
切り札と称され、事業規模が数千億円、部品数が数万点とすそ野の広い産業であり、
関連産業への経済波及効果が期待されております。

洋上風力関連産業が自立的かつ持続的に発展し、本市の新たな基幹産業の一つと
なることを目的とする、現在策定中の「鹿嶋市洋上風力発電事業推進ビジョン」を
着実に展開し、関連産業の立地集積や立地企業の新規参入を促し、国内における洋
上風力産業の総合支援拠点の形成を目指してまいります。

いずれにしましても私は、本市における新産業時代の幕開けともなり得る、次世
代製鉄の実現、並びに水素・燃料アンモニア等の次世代エネルギー及び洋上風力に
よる再生可能エネルギー拠点の形成の2点について強く求めてまいります。

また、市内中小企業の振興としましては、商工会や農協と連携し、事業の自走化
を目指す「伴走型支援」を継続するとともに、事業者の効率的運営やチャレンジで
きる環境に資する週貸店舗の設置、あるいはコストをかけずに事業展開できるネッ
ト販売支援などを通じて、個々の事業者の稼ぐ力の向上を目指してまいります。

2 行ってみたい、暮らしてみたい鹿嶋

次に「行ってみたい、暮らしてみたい鹿嶋」づくりへの挑戦です。

本市は、温暖な気候と豊かな自然の中で悠久の歴史を紡いできております。「鹿
島神宮」に代表される歴史・伝統に加え、鹿島神宮とともに歩んできた武道や「鹿
島アントラーズ」とともに育まれてきたサッカーをはじめとしたスポーツ文化、ま
た、「北浦」・「鹿島灘」、それに囲まれた肥沃な台地と田園などの豊かな自然・食材
など、多様な資源がある魅力的な地域であります。このような地域の宝を掘り下げ、
磨き上げるとともに有効に活用しながら、効果的な情報発信により、より多くの
方々を本市へ引き込んでまいります。

田園地帯の観光や体験としての農業や釣り船、そしてサイクリングによる市内回
遊などの「グリーンツーリズム」の振興を図ります。さらに新型コロナウイルス感
染症の流行に伴うリモートワークの普及を機に注目されている「田舎暮らし」の需

要の取り込みを目指し、手軽に滞在できる宿泊貸別荘の供給やマンスリー移住の機会確保について取り組んでまいります。また、本市のひとつの顔である「歴史のまち」として、豊富な歴史資源を生かした「歴史探求ツーリズム」を推進するなど、まだ認知されていないものも含め、本市の魅力ある様々な資源をハード・ソフト問わず「私の一押し」として、市民目線の鹿嶋市自慢としてSNSを通じて発信する取り組みを進めてまいります。

新スタジアムの整備に関しましては、既存スタジアム周辺での建設を促すため、アントラーズの描くビジョンを具現化するような「既存スタジアム周辺における再開発」を検討してまいります。また、当該地での整備が決定した際は、アントラーズ、茨城県との調整を図りながら、それぞれの役割分担の下、「サッカーのまち」に相応しく賑わいを生むシンボリックな施設となるよう、整備に協力してまいります。

「歴史資料館」につきましては、約11億円の施設整備費や運営コストを考慮し、事業の執行を停止いたします。なお、課題となっている本市に存する貴重な歴史資料を収集・整理・研究・保管する施設については、滅失、散逸、盗難の危険性もあることから、早急に検討してまいります。

3 元気で賢い鹿嶋っ子育成

3つ目が「元気で賢い鹿嶋っ子育成」であります。

次世代を担う子ども達は、未来への希望です。グローバル化や情報化の進展、人工知能（AI）やビッグデータの活用など、技術革新が急速に進展し、これからの社会を生き抜くために求められる資質や能力も想定外に大きく変化するであろうことは容易に予測できます。学校や学びの在り方などが新たな局面を迎える中、本市は先駆的に英語教育をはじめ、アクティブ・ラーニング、ICT教育機器の導入の推進などを図り、着実に自ら考え、行動する児童生徒を育み、学力の向上につなげてまいりました。

私は、これらの取り組みの効果を更に発揮させるためには、国語・算数の能力を高めることが必要で、特に国語教育による言語能力の向上が重要であると考えております。日本語の聞き取り、読み取りができなければ、他教科を理解することはできません。また、きちんと話す、書くことができなければ、自分の伝えたいことを相手に正しく伝えることができず、相手からも理解されなくなることから、国語は全ての教科の学習において、教育の一丁目一番地と言っても過言ではないのでしょうか。言語、すなわち、私たちにとっての日本語は、生活や仕事、良好な人間関係の構築に欠かせないものであり、適切な国語教育が行われることは、社会生活の前提として不可欠なものです。

また、言語能力の土台となる豊かな語彙を身につけるためには、日常的に本に

親しむことが重要であることから、乳幼児時期から読書環境を確保するため、子ども向け図書の充実を進めてまいります。さらに、元気で明るい鹿嶋っ子の育成に向け、体育授業やスポーツクラブへの支援、さらに郷土の歴史への理解を深めてまいります。

教育スタイルについても柔軟に変革させながら、新たな時代を切り開くことのできる「元気で賢い鹿嶋っ子」の育成に努めてまいります。

4 暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋

4つ目が「暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋」づくりへの挑戦です。

人生100年時代と言われる中で、市民の皆様お一人おひとりが、安全・安心に、元気に、輝きながら、学び、活躍し、健康で充実した生活が送れるよう、市民生活に直結する環境整備などに取り組んでまいります。

快適な住環境の創造に向け、雨水排水対策、生活道路などの整備を進めるとともに災害に備えた防災拠点機能の確保・業務継続体制の構築など、防災や生活インフラの充実に努めます。また、公共交通については、現在の路線バス及びデマンドタクシーの利便性の向上を図るとともに、将来を見据えて、自動運転技術を核としたMaas等を含めたさまざまな次世代新技術実証実験へ積極的に参加し、社会環境の変化に対応した新たなサービスの導入の可能性について検討してまいります。

子どもと家庭を取り巻く環境の変化が大きな社会問題となっていることから、子育ての不安や悩みのほか、児童虐待やDV、ヤングケアラーなど、子どもや家庭に関するあらゆる相談体制の充実を図るとともに、子育て支援団体や子ども食堂などを実施している各種団体とも緊密な連携を図り、子どもの健やかな成長に向けた体制を整備してまいります

また、宮中地区に整備予定の新たな子育て支援施設につきましては、今議会に契約関係議案として提出してありますとおり、今年度建設工事を進め、令和5年4月の開園を目指してまいります。

引き続き、安心して結婚から妊娠、出産、子育てできる環境づくりと、子どもの健やかな成長に向けて、子育て支援の充実と質の向上の取り組みを推進してまいります。

健康であることが、日々生活するうえで最も重要です。

健康を維持し、また取り戻し、安心して生活するためには医療体制の構築が必要となります。現在、鹿行南部医療圏での広域的な体制整備をはじめ、市独自事業としての医師確保や二次救急医療機関運営費補助など、その整備・充実に努めております。今後も、茨城県との連携による更なる医師確保や市内の医療機関はもとより

県内外の三次救急医療機関とも連携して、市民がいつでも適切な医療を受けられるよう地域医療体制の充実を図ってまいります。また、市民の皆様が生涯にわたり健康で生き生きとした生活が送れるよう、ライフステージに応じた各種健康づくり事業を推進してまいります。

本年1月以降猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症の第6波ではありますが、国・県・市のいずれも5月下旬以降は減少傾向となっており、今後の対応につきまして、国からはマスクの着用をはじめイベント等の開催が一部緩和する方針が示されました。市といたしましても市民の皆様へのお知らせを含め引き続き感染症対策の周知徹底に努めてまいります。

あわせて、ワクチンの4回目接種につきましては、鹿島医師会の松倉会長を始め市内医療機関の御尽力のもと、60歳以上の方と18歳から59歳以下の基礎疾患がある方を対象とし、3回目から5か月経過後に順次接種できるよう準備を進めております。今後も市民の皆様が安全かつ円滑に接種できるよう、市内医療機関の御支援御協力をいただきながら、体制の確保に努めてまいります。

さらに、彩り豊かな人生を送るためには、学びによる自己実現、それらを通じた地域とのつながりや人と人との絆が大切であることから、芸術文化ほか各クラブ活動とともに各公民館事業の活性化など、生涯学習の振興に取り組んでまいります。

5 行財政改革

最後、5つ目が「行財政改革」への挑戦です。

これなくして、持続可能なまちづくりはあり得ません。

仕事の成果は、方向性、質、スピードが重要な要素です。特に方向性を間違えば、努力は水泡に帰します。客観的、論理的に課題解決の方向性を導くために、市役所においては、数値化と要旨簡潔による報告・連絡・相談を推進してまいります。さらに、PDCAサイクルを効率よく回し、業務の生産性向上へ向けDX、ICT、RPA、AIなどデジタル技術を積極的に活用してまいります。併せて、現在実施している各種事業につきましても、改めてその必需性を吟味し、選別しながら、見直しや断捨離を実施してまいります。

また、地方創生が声高に言われる昨今、政策実現のための「政策力」により、自治体の浮沈がかかっています。幅広い見識と、深い洞察力を備えた政策力のある職員を育成するとともに、効率的な政策の展開を求めて、新規事業を実施する際は、既存事業の見直しを図る“ビルド&スクラップ”を基本的とした部課裁量予算を推進してまいります。

現在、さまざまな形で、多くの市民に各種まちづくりに係わっていただいております。今後とも、市民一人ひとりがまちづくりの主役となり、市民の皆様が持つ知識や経験、情熱と行動力を生かして、地域が抱える様々な課題の解決に向けて、市民の皆様からの事業提案を含め、ともに考え、ともに取り組んでまいります。

また、事業者との官民連携を推進し、民間の持つ多様なノウハウや技術を活用して、業務の効率化及びサービスの向上に努めてまいります。

本市財政につきましては、先にも述べましたように、今後、非常に厳しい運営が予想されます。税収アップを見込むのが厳しい中、投資的経費を抑えながら、実質単年度収支の黒字化並びに扶助費を抑えた経常収支比率の低下を目指し、公共施設の適正配置など抜本的政策展開により、財政健全化を図ってまいります。

以上、所信の一端を述べさせていただきましたが、これらの施策を実現するためには、議会の皆様、市民の皆様の御理解と御協力が不可欠であります。

また、議会の皆様とは、お互いの考えを尊重し、意見の相違を明らかにし、議論する建設的な関係でありたいと思います。

「明るく、心豊かに暮らせる鹿嶋」づくりに向けて、今後とも格別なる御支援、御協力をお願い申し上げまして、これから4年間の市政運営に関する所信表明といたします。

《提出議案等》

次に、提出いたしました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が2件、条例関係議案が4件、人事関係議案が1件、契約関係議案が1件、認定関係議案が1件、報告関係議案1件の、合わせて10件であります。

まず、予算関係議案は、令和4年度の一般会計の補正予算であります。

1件目としましては、既定の予算総額に、歳入歳出それぞれ9,181万5千円を増額し、総額を240億7,181万5千円とするものです。子育て世帯生活支援特別給付金給付事業を計上いたしました。

2件目としましては、既定の予算総額に、歳入歳出それぞれ2億3,907万9千円を増額し、総額を243億1,089万4千円とするものです。新型コロナウイルスワクチン接種経費の増、プレミアム商品券事業による商工業振興事務経費の増などを計上いたしました。

条例関係議案は、鹿嶋市資金積立基金条例の一部を改正する条例などであります。

人事関係議案は、鹿嶋市副市長の選任に当たり、議会の同意を求めるものです。

契約関係議案は、「鹿嶋市地域子育て支援センター新築工事（建築工事）請負契約について」であります。

認定関係議案は、林地内に整備した市道路線の認定であります。

報告議案は、鹿嶋市税条例等の一部を改正する条例の専決処分についてであります。

私の説明は以上で終わりますが、予算以外の議案につきましては、総務部長から補足説明をさせていただきます。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。